
smile by
easy, eco, and efficient
separation



事業報告書（第8期）

自 令和2（2020）年10月1日

至 令和3（2021）年9月30日

イーセップ株式会社（eSep Inc）

京都府相楽郡精華町精華台7丁目5番地1

けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内

<内容>

1. Mission -----	P 2
2. 株主の皆様へ（事業・開発状況報告）-----	P 3
3. 財務状況 -----	P 14
4. 投資家情報 -----	P 21

1. Mission

現在の化学・エネルギー産業では様々な省エネルギー対策が行われていますが、全消費エネルギーの約40%におよぶ多大なエネルギーが化合物の‘分離’行程で費やされており、省エネルギー化のボトルネックになっています。現在の分離プロセスは大変複雑なものですが、これを“簡単に (easy) に、エコロジカル (eco) で、効率の (efficient) 良い分離 (Separation) を達成することで、お客様ニッコリ (唇に似せた凹の矢印)” の意を込めて、企業名イーセップ (smile by easy, eco, and efficient Separation: eSep) とロゴマークを決めています。

5種類の色：緑の目、黄色い鼻、黒の目、青の耳、赤の口は、人種を超え、世界中で協力し合う方針を示しています。また上向きの赤い矢印は、弊社の将来の業績も表現しています。開発投資が進むことで一時的にキャッシュフローはマイナスに転じますが、開発した製品により将来的には大きく成長することを表現しています。



図1 弊社 (eSep) ロゴ.

2. 株主の皆様へ（事業・開発状況報告）



代表取締役社長 澤村健一

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

エネルギー・環境問題を突き詰めて考えると、「分離」という分ける技術をより高度化し、合わせて低コスト化・省エネ化・小型化することで、問題の半分くらいは解決できるのではないかと考えています。

例えば現在社会的課題となっている地球温暖化問題にしても、そもそも温暖化ガス（CO₂）をもっと低コストに分離できる技術があれば、解決できる話です。

またバイオエタノールなどの再生可能なバイオ燃料にしても、非可食原料由来では水中に生成されるエタノール濃度はたった5%程度で、そこから燃料利用できるまでに分離・精製することに、現状では大半のエネルギーが失われています。バイオ燃料の製造・利用プロセスを省エネ化するほど、再生可能エネルギーの普及を拡大させることができます。化学工場にしても、現状では高さ数十mほどもある巨大な塔が建っていますが、これは化学物質を分離するための施設です。大きすぎて、どこでも設置という訳にはいきません。そのため使用後の化学溶剤でリサイクル・再生されているのは、日本でも1割程度しかありません。設置が容易な小型な分離・再生ユニットがあれば、化学溶剤の廃棄量を大幅に削減し、原料となる化石資源の消費を節約することができます。

化学プロセスも、もっと低コスト化・省エネ化・小型化することはできないのでしょうか？身近な例で考えると、コンピューターだって、搭載する中身のチップが真空管→トランジスタ→IC→LSIと進化することで、50～60年前は数十mサイズだったものが、パソコンやケータイなど、誰でも使えて手で持ち運べるほどに大幅な低コスト化・省エネ化・小型化を達成しています。

化学プロセスを低コスト化・省エネ化・小型化することを突き詰めて考えると、分離プロセスをより簡単、エコ、高効率にする必要があるという考えに至りました。

イーセップ (eSep) では、ナノセラミック分離膜という技術を活用し、「簡単、エコ、高効率な分離」を実現することで、エネルギー・環境問題に取り組みます。

エネルギー・環境問題は世界的課題ですので、産学官のオープンイノベーションにより、世界中の人々と連携しながら、取り組んでいきたいと考えています。

イーセップの具体的な取組み・ビジョンについて「[eSep Vision](#)」として概要をまとめました。弊社 HP (<https://esep.kyoto>) からでもご参照頂けますので、ご参考にしてください。

【eSep Vision 2021 (カーボン・ニュートラルへの対応)】

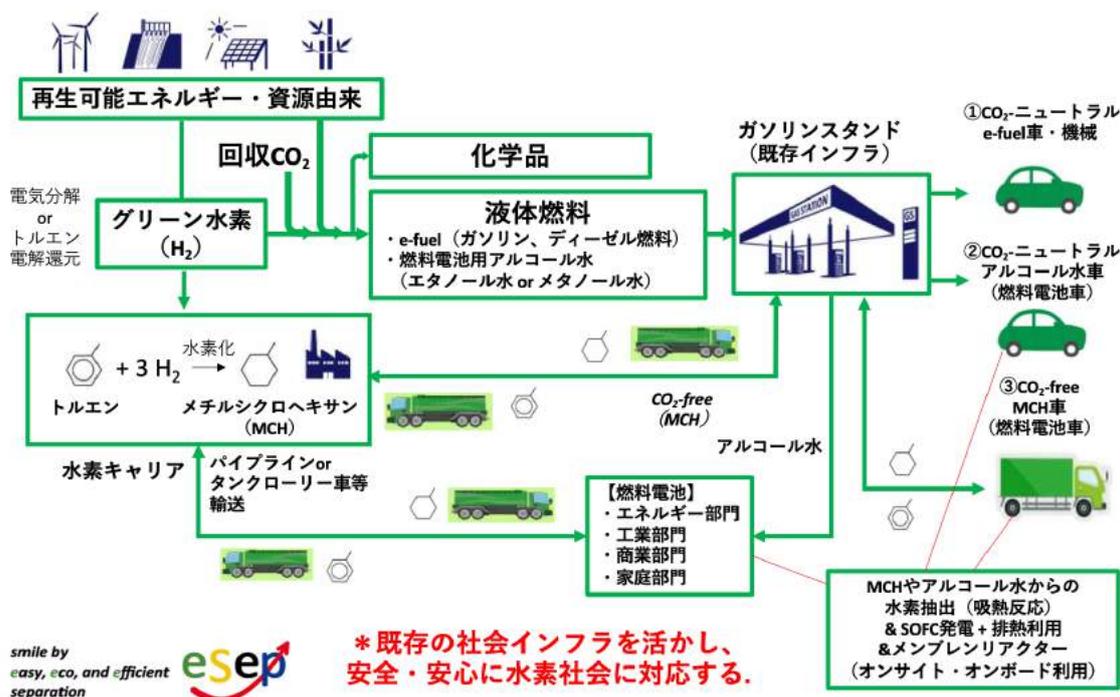


図2 eSepにて進めるカーボン・ニュートラルへの対応 (全体像) .

◆コア技術（ナノセラミック分離膜）

弊社の強みは、耐熱性・耐薬品性に優れるナノ細孔径を制御したセラミック膜（ナノセラミック分離膜）の製造技術にあります。大きな分子から小さな分子を選択的に透過除去する分離膜としてのシリカ系分離膜に加え、本年度から大きな分子を選択的に膜透過除去できるゼオライト系多結晶膜も新規に開発し、ラインナップに加えました。シリカ系分離膜は主に溶剤の脱水や水素回収、ゼオライト多結晶膜は後述する e-fuel 高効率合成に利用します。

シリカ系分離膜については基礎開発を完了し、今期は生産設備の構築を進めました。試運転で抽出した課題を踏まえ、次期改良工事を進め、2022年度での正常稼働を目指します。

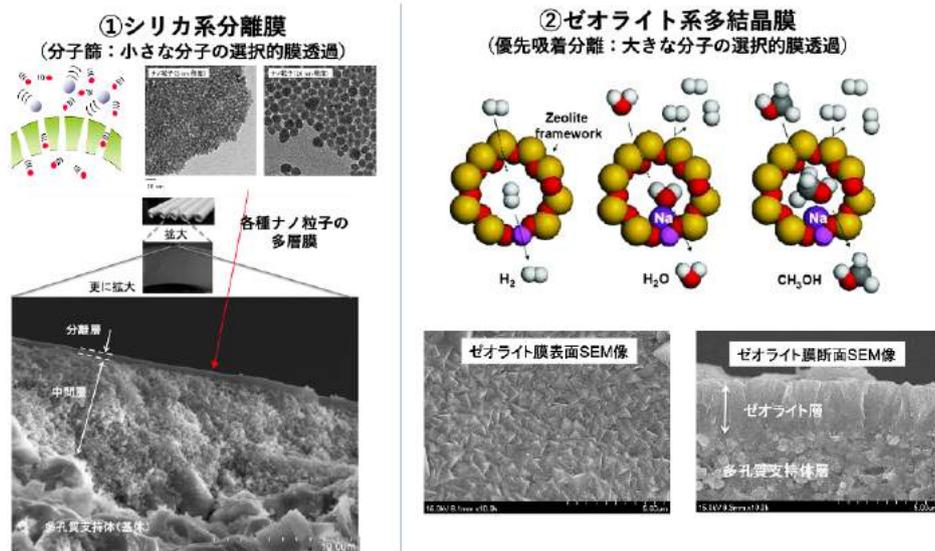


図 3. eSepのコア技術（ナノセラミック分離膜）。



図 4. シリカ系分離膜の生産設備構築状況。

◆注力するカーボン・ニュートラル化学プロセスの開発

事業としては昨今のカーボン・ニュートラルへの対応ニーズを踏まえ、(1) 化学溶剤のリサイクル、(2) e-fuel の高効率合成、(3) 水素キャリアの利活用を注力する3分野に選定し、開発・事業化を推進しています。

(1) 化学溶剤のリサイクル

先述の通り、化学工場では現状では高さ数十mほどもある巨大な塔が建っていますが、これは化学物質を分離するための施設です。大きすぎて、どこでも設置という訳にはいきません。そのため使用後の化学溶剤でリサイクル・再生されているのは、日本でも1-2割程度しかありません。設置が容易な小型な分離・再生ユニットを事業化することで、化学溶剤の廃棄量を大幅に削減し、原料となる化石資源の消費を節約することを目指しています。化学溶剤のリサイクルについては、搭載する分離膜に広島大学から技術導入（特許 5900959, 特許 6474583, 特許 6548215 の3件の独占ライセンス）したシリカ系分離膜を採用しており、広島大学との産学連携にて進めています。

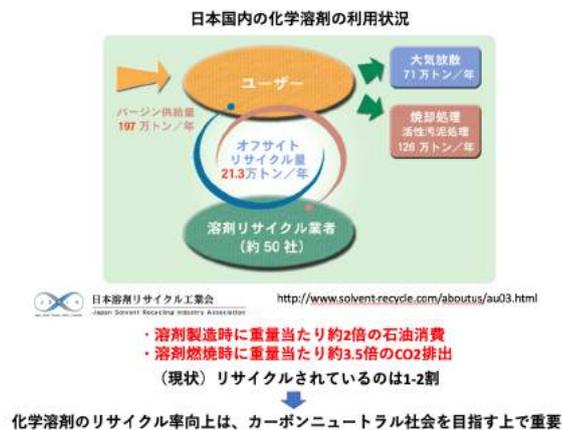


図5. 化学溶剤の再生（現状の課題）.

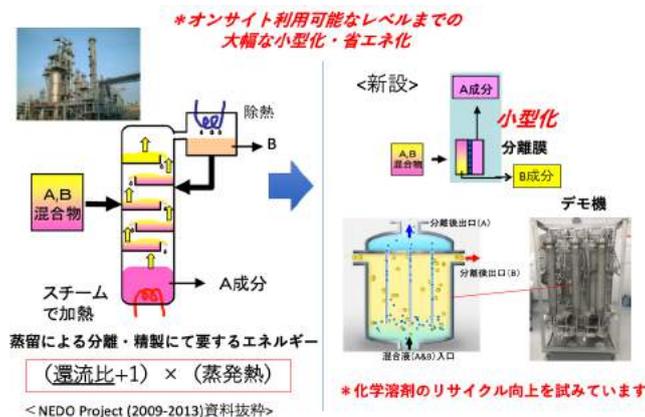


図6. 化学溶剤の再生（eSep 提案）.

(2) e-fuel の高効率合成

2050年でのカーボンニュートラル達成を目指し、2020年を境に、世界的にカーボンニュートラルに向けたグリーン技術開発投資が加速し、自動車から化学、環境、エネルギーなど殆どの分野で、その事業環境は一変しました。CO₂増加の主原因となる天然ガス、石油、石炭などの化石資源ではなく、カーボンニュートラルとなる再生可能なバイオマス由来、あるいは回収されたCO₂を原料とする燃料への代替が急務となりました。その一方で、例えば林地残材などの木質バイオマスは現状7割以上が未利用のままです。その利活用のボトルネックは資源が広域に分散することによる収集・運搬コストであり、大規模集積化が困難なのが実情です。経済性が確保された一貫システムを構築するためには、大規模集約型を前提とする従来技術の延長線上では実現困難であり、小規模分散型でも高い経済性を発揮する技術体系の確立が必須です。

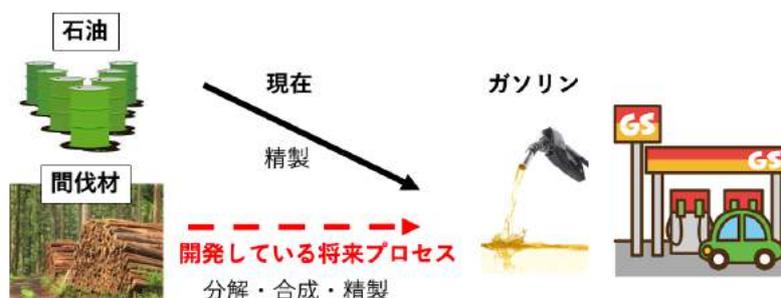


図7. 開発している未利用木質バイオマス資源からのガソリン製造.

弊社では、再エネ由来のカーボンニュートラルな液体合成燃料（ガソリンやディーゼル）としての e-fuel の新規製造プロセス開発を推進しています。e-fuel の合成方法は、大別して、メタノール合成経路と FT 合成経路の 2 通りが考えられますが、例えばメタノール合成経路では、以下の反応に示すように、従来の化石資源由来の原料では CO と水素の混合ガスである合成ガスを経由した合成（式 1）がメインでしたが、CO₂ を原料とする場合、特に式 2～4 を考慮する必要があります。式 1～4 までは平衡反応ですが、式 5 は平衡の制約は受けません。そのため一旦 DME まで転換できれば、C₂ 以上のオレフィンやガソリンへの転換技術は、既存技術が利用できます。式 5 により DME がオレフィンやガソリン等に転換されると式 4 で MeOH からの DME 転換が促進される。そのため、CO₂ から MeOH と DME の混合物を得るまでの工程が、現状のボトルネック工程と判断されます。

CO₂ を原料とする化学品や燃料の合成については、その合成工程で多量のエネルギーを消費してしまうことはカーボンニュートラルの観点からは本末転倒であり、より一層の省エネ化、高効率化が必要です。

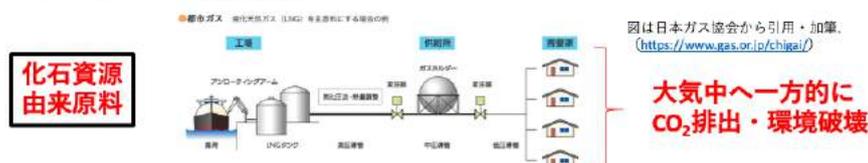
(3) 水素キャリアの利活用

水素社会の構築において、各種水素キャリアからオンサイトで水素を分離・精製できる小型システムが求められています。搭載させる最適な分離膜の開発がボトルネックとなっています。弊社では、広島大学及び神戸大学との連携により、高価な貴金属であるパラジウムを用いないシリカ系分離膜において、炭素、フッ素、あるいはチタンと複合化することで、従来の課題だった膜安定性を向上させました。開発した新規シリカ複合膜を用いて、メチルシクロヘキサン（MCH）やエタノール水などの各種水素キャリアから、オンサイトで利用可能な水素分離膜モジュールの事業化開発を推進しています（図10及び図11）。

尚、メチルシクロヘキサン（MCH）からの水素抽出は、令和3年度戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）「パラジウム代替新規シリカ複合膜によるオンサイト型水素分離膜モジュールの開発」支援にて、神戸大学と共同で推進しています。エタノール水からの水素抽出については、NEDO 課題設定型産業技術開発費助成金「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業フェーズC（バイオマス分野）：分離膜を活用したバイオエタノールの高効率製造と固体酸化物形燃料電池への応用開発」支援にて、広島大学と共同で進めています。

【水素キャリアの利活用】

【既存の社会システム：CO2増加】



【目指している社会システム候補①：CO2フリー】



【目指している社会システム候補②：カーボンニュートラル】



図10. 水素キャリア用オンサイト型水素分離膜モジュールの適用（全体イメージ）。

【必要な技術開発（抜粋）】

オンサイト・オンボードで水素キャリアから水素を抽出・精製・利用する
 * 燃料電池の改質部分を、既存の都市ガスから水素キャリアにも対応できるように改造が必要

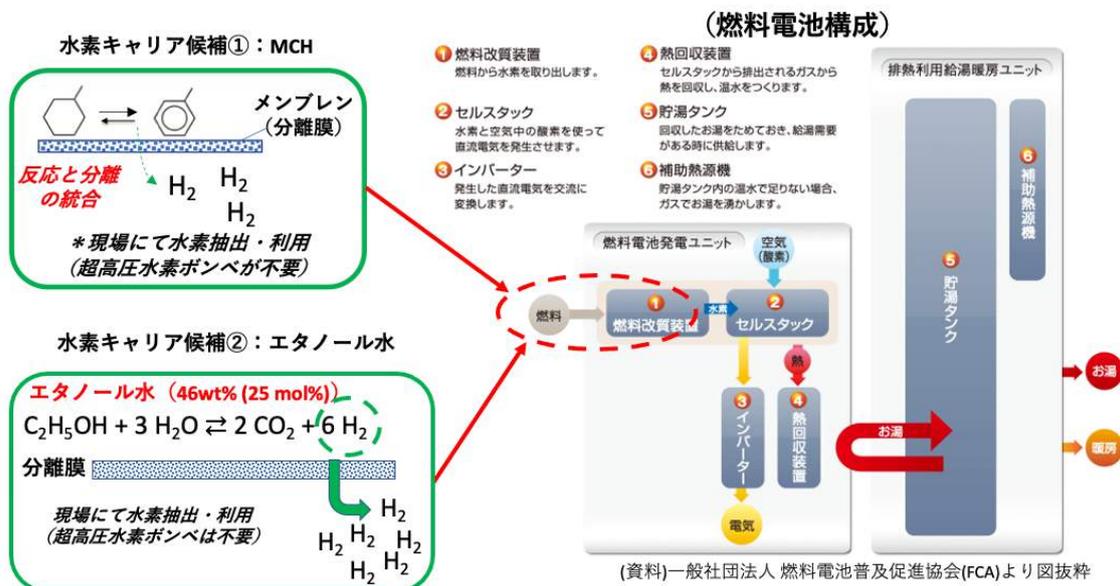


図11. 水素キャリア用オンサイト型水素分離膜モジュールの燃料電池 (SOFC) 利用.

◆経営見通し

当社の主たる事業は、化学産業向けでナノレベルの分離が可能なセラミックフィルターの開発・製造・販売です。コロナ禍前の事業計画では自社で製造したセラミックフィルターを、海外の石油・化学プラント向けに展開・販売することを予定していました。しかしコロナ禍により客先及び連携事業者の事業環境が大幅に悪化し、計画していた海外プロジェクトのほとんどが大幅延期あるいは一旦中止に追い込まれました。更に世界的なカーボンニュートラルへの潮流変化も加わり、業界全体として事業の再構築が必要な状況となりました。

今期実績としては、前年度売上げ税抜 75,073 千円（税込 82,581 千円）から、税抜 96,146 千円（税込 105,761 千円）と、28%向上致しました。ただし今期事業の期初売上計画は税抜 135,818 千円（税込 149,400 千円）でしたので、期初計画値に対しては 39,672 千円下回る結果となりました。この原因としては、上記の通りコロナ禍による予定していた大型プロジェクトの延期・中止が主原因です。当期純利益については、膜量産化開発に要する追加開発費償却のため 48,100 千円の計画的赤字に対して、実績としては 62,298 千円の赤字でした。赤字幅が計画より 14,198 千円増加している原因は、主として後述する e-fuel の高効率合成及び水素キャリアの利活用に関する、新規開発投資に踏み切ったことによるものです。コロナ禍による海外プロジェクトの遅延は当面弊社単独では対応困難ですが、世界的なカーボンニュートラルへの潮流変化は、弊社としては相当な追い風となるビジネスチャンスです。そのため今期は高まるカーボン・ニュートラルへの対応ニーズを踏まえ、(1) 化学溶剤のリサイクル、(2) e-fuel の高効率合成、(3) 水素キャリアの利活用に経営資源を注力するため、まず今期 5～6 月に上記新規事業の開発資金として、第三者割当増資により 40,000 千円の資金調達（資本金 7,050 万円→9,050 万円）を行いました。コロナ克服後の社会で世界展開できるよう、まずは日本国内にて上記 3 分野の事業を重点的に成長させます。特に e-fuel の高効率合成や水素キャリアの利活用については弊社にとっては新規参入分野であることから、産学公の連携体制を構築して当該事業に臨んでいます。弊社のカーボンニュートラル化への積極的対応が評価され、下記 3 件の行政支援が今期決定されました。

・令和 3 年度「産学公の森」推進事業Ⅱ 事業化促進コース「採択テーマ：CO₂ と水素から e-fuel を直接合成するメンブレンリアクターの開発」

公益財団法人京都産業 21（～2022.1 末）：17,885 千円（*京都大学と共同）

・令和3年度戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）「パラジウム代替新規シリカ複合膜によるオンサイト型水素分離膜モジュールの開発」：（～2024.3末）：73,091千円（*神戸大学と共同）

・NEDO 課題設定型産業技術開発費助成金「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業フェーズC（バイオマス分野）：分離膜を活用したバイオエタノールの高効率製造と固体酸化物形燃料電池への応用開発」（～2023.3末）：46,435千円（*広島大学と共同）

上記カーボン・ニュートラル化へ対応と行政支援による後押しを踏まえ、次期は第三者割当増資により追加資金調達を行い、（1）化学溶剤のリサイクル、（2）e-fuelの高効率合成、（3）水素キャリアの利活用の3分野の事業成長を加速させます。次期（2021年10月～2022年6月）に第三者割当増資により100,000千円（1億円）以上の資金調達を行い、調達した資金により、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）に各種カーボンニュートラル化学プロセスの小規模実証設備の構築を進めます（図12）。スケジュールとしては2025年の大阪万博に標準を定め、逆算して2023年度からは具体的な実証試験が開始できるよう、2022年度中に設備構築を完了させるべく手続きを進めています。KICK自体は国際的な展示会も開催される施設ですので、弊社としては地の利を活かして、KICK内に安全・安心な各種カーボンニュートラル化学プロセスを設置・実証することで、世界への技術発信を加速させます。



図12. けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）での実証設備構築。

以上の事業環境の変化を踏まえて修正した事業の見通し・計画を図13に示します。次期（2022年度）は採択された行政支援（補助金）を踏まえ、先述のカーボン・ニュートラル事業への本格参入を試みます。事業の柱としてはコア部品であるナノセラミック分離膜の製造・販売という既存事業に加え、ナノセラミック分離膜の強みを活かした新規カーボン・ニュートラル事業<サービス業>の2本柱です。カーボン・ニュートラル事業については、先述の（1）化学溶剤のリサイクル、（2）e-fuelの高効率合成、（3）水素キャリアの利活用の3分野に注力します。ただ現状コロナ感染症の世界的動向が不明瞭なため、2022～2024年度までは日本国内での事業・実績作りに注力し、市場の大きな世界展開は2025年以降に本格展開する計画です。

またIPOを2025年度（N期）に見据えると監査法人による監査開始前に累積した開発費は2022年度（N-3期）までに全て償却する必要があるため、2022年度（次期）に累積した開発費償却として約150,000千円計上予定です。このため次期は事業としては上記行政支援（補助金）もあり収支ゼロの見込みですが、当期利益としては開発投資償却分の約150,000千円の赤字見込みです。ただしこれら開発投資は今後のカーボンニュートラル事業を大きく成長させるための設備・人材・技術の拡充に転換したものであるため、その後の弊社事業を大きく成長させる原動力となります。IPOに向けた事業計画としては、2023年度に黒字化させ、2025年度でのIPOに向け事業を発展させます。

投資家の皆様には、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



図13 eSep 事業経過及び計画（修正版）。

3. 財務状況

今期から税抜方式での計上に変更しての表記となりました（*前期までは税込計上方式）。以降、貸借対照表、損益計算書、販管費・一般管理費内訳書、株主資本等変動計算書、個別注記表、監査報告の順で資料を示します。

貸借対照表

(単位：円)

イーセップ株式会社

令和 3年 9月30日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	161,464,195	【流動負債】	12,064,204
現金及び預金	149,811,727	買掛金	4,533,839
売掛金	2,746,590	未払金	76,852
未収入金	1,415,752	未払費用	4,698,501
材料品	4,402,700	未払法人税等	778,500
前払金	1,351,400	前受金	1,300,000
前払費用	1,736,026	預り金	676,512
【固定資産】	113,423,955	【固定負債】	258,345,943
(有形固定資産)	105,139,755	長期借入金	241,932,000
建物附属設備	6,395,270	長期未払金	15,796,982
機械装置	76,045,338	役員借入金	616,961
車両運搬具	25,952	負債の部計	270,410,147
器具備品	19,990,080		
一括償却資産	2,683,115		
(無形固定資産)	5,333,855		
ノウハウ	866,667	純資産の部	
ソフトウェア	4,467,188	【株主資本】	95,203,682
(投資等)	2,950,345	[資本金]	90,500,000
出資金	20,000	[資本剰余金]	87,500,000
差入保証金	1,482,000	資本準備金	87,500,000
長期前払費用	1,448,345	[利益剰余金]	△82,796,318
【繰延資産】	93,725,679	(その他利益剰余金)	△82,796,318
開発費	93,725,679	繰越利益剰余金	△82,796,318
		【新株予約権】	3,000,000
		純資産の部計	98,203,682
資産の部計	368,613,829	負債・純資産の部計	368,613,829

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 2年10月 1日

イーセップ株式会社

至 令和 3年 9月30日

科 目	金 額	
【売 上 高】		96,146,524
売 上 高	61,085,100	
受 託 売 上 高	35,061,424	
【売 上 原 価】		
当期製品製造原価	66,672,880	
合 計	66,672,880	66,672,880
売 上 総 利 益		29,473,644
【販売費及び一般管理費】		87,035,127
営 業 利 益		Δ57,561,483
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	1,063	
受 取 配 当 金	600	
雑 収 入	30,685,646	30,687,309
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息	1,919,645	
維 持 管 理 費	99,492	
外 注 費	2,200,000	4,219,137
経 常 利 益		Δ31,093,311
【特 別 損 失】		
固 定 資 産 売 却 損	250,242	
固 定 資 産 除 却 損	1	
前 期 損 益 修 正 損	176,339	
過 年 度 開 発 費 償 却	30,000,000	30,426,582
税 引 前 当 期 純 利 益		Δ61,519,893
法 人 税 住 民 税 及 事 業 税		778,783
当 期 純 利 益		Δ62,298,676

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 2年10月 1日

イーセップ株式会社

至 令和 3年 9月30日

科 目	金 額
役 員 報 酬	18,300,000
給 料 手 当	25,534,505
賞 与	3,318,055
法 定 福 利 費	6,168,529
福 利 厚 生 費	937,789
旅 費 交 通 費	2,055,666
通 信 費	2,531,735
減 価 償 却 費	539,591
賃 借 料	13,032,516
保 險 料	653,302
修 繕 費	525,120
水 道 光 熱 費	1,048,784
燃 料 費	194,250
消 耗 品 費	3,199,333
租 税 公 課	1,830,450
運 賃	404,008
支 払 手 数 料	816,620
諸 会 費	1,338,048
新 聞 図 書 費	145,898
保 守 料	802,600
衛 生 費	318,398
会 議 費	7,612
研 修 費	130,500
支 払 報 酬	2,614,915
長 期 前 払 費 用 償 却	151,030
試 験 研 究 費	435,873
販売費及び一般管理費	87,035,127

製造原価報告書

(単位：円)

自 令和 2年10月 1日

イーセップ株式会社

至 令和 3年 9月30日

科 目	金 額	
【材 料 費】		
期首材料棚卸高	3,272,033	
材 料 仕 入	5,684,170	
期末材料棚卸高	4,402,700	4,553,503
【労 務 費】		
賃 金 給 料	6,956,742	
賞 与	1,430,740	
法 定 福 利 費	948,219	
福 利 厚 生 費	97,510	9,433,211
【製 造 経 費】		
原 外 注 費	145,727	
水 道 光 熱 費	1,112,004	
消 耗 品 費	6,160,929	
賃 借 料	4,199,386	
修 繕 費	556,948	
減 価 償 却 費	39,552,612	
旅 費 交 通 費	230,442	
支 払 手 数 料	341,300	
支 払 報 酬	386,818	52,540,439
総 製 造 費 用		66,672,880
当期製品製造原価		66,672,880

株主資本等変動計算書

イーセップ株式会社

(単位：円)

自 令和 2年10月 1日
至 令和 3年 9月30日

	株 主 資 本			資 本			株 主 資 本 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金				
当期首残高	70,500,000	67,500,000		120,497,642			117,502,358		1,400,000	118,902,358
当期変動額										
新株の発行	20,000,000	20,000,000					40,000,000			40,000,000
当期純利益				162,298,676			162,298,676			162,298,676
株主資本以外の当期変動額(純額)									1,600,000	1,600,000
当期変動額合計	20,000,000	20,000,000		162,298,676			122,298,676		1,600,000	120,698,676
当期末残高	90,500,000	87,500,000		182,796,318			95,203,682		3,000,000	98,203,682

	利 益 剰 余 金 の 内 訳	
	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 計
当期首残高	120,497,642	120,497,642
当期変動額		
新株の発行		
当期純利益	162,298,676	162,298,676
株主資本以外の当期変動額(純額)		
当期変動額合計	162,298,676	162,298,676
当期末残高	182,796,318	182,796,318

個 別 注 記 表

自 令和 2年10月 1日
至 令和 3年 9月30日

イーセップ株式会社

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

材料品……最終仕入原価法により算出した取得価額による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産除く)……建物は定額法、建物以外は定率法

無形固定資産(リース資産除く)……定額法

(平成28年4月1日以降取得の建物附属設備・構築物は定額法)

収益及び費用の計上基準

収益については実現主義により認識し、費用については発生主義により計上している

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

繰延資産の減価償却の方法……任意償却

2. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 67,812,955 円

取締役等に対する金銭債権・金銭債務

金銭債務 616,961 円

消費税及び地方消費税の会計処理

税抜方式で計上している

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式

普通株式(発行済株式)

前期末株式数(発行済普通株式) 4,600 株

当期増加株式数(発行済普通株式) 100 株

当期末株式数(発行済普通株式) 4,700 株

新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

自己新株予約権に関する事項

新株予約権の目的となる株式の種類

普通株式

新株予約権の目的となる株式の数 1,200 株

新株予約権の当期末残高 3,000,000 円

監 査 報 告

私監査役は、令和2年10月1日から令和3年9月30日まで
第8期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記
表を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和 3年11月19日

監 査 役 寺本 和生

4. 投資家情報

<発行株総数：4,700株>

- ・澤村 健一（創業者/代表取締役社長） <3,000株>
- ・合同会社Global Research Express（eSep資産管理会社）<300株>
- ・中信ベンチャー・投資ファンド4号投資事業有限責任組合
無限責任組合員 中信ベンチャーキャピタル（株） <300株>
- ・三菱UFJキャピタル6号投資事業有限責任組合
無限責任組合員 三菱UFJキャピタル（株） <280株>
- ・フェニックス投資事業有限責任組合
無限責任組合員 フューチャーベンチャーキャピタル（株） <210株>
- ・NVCCスタートアップファンド投資事業有限責任組合
無限責任組合員 日本ベンチャーキャピタル（株） <200株>
- ・三立化成株式会社 <100株>
- ・京銀輝く未来応援ファンド投資事業有限責任組合
無限責任組合員 京銀リース・キャピタル（株） <100株>
- ・東洋スクリーン工業株式会社 <100株>
- ・イノベーションC投資事業有限責任組合
無限責任組合員 フューチャーベンチャーキャピタル（株） <60株>
- ・富士色素株式会社<50株>

報告書

前記のとおりご報告申し上げます。

2021年11月30日

イーセップ株式会社
代表取締役社長 澤村 健一

***smile by
easy, eco, and efficient
separation***

